

Interview

絵本にルールなんてない いろんな楽しみ方をしています



お笑いタレント
平野ノラ
→[選書p29]

ときには絵本を巻末から読むことも

娘の絵本デビューは生後1~2ヶ月。まわりのモノを目で追ったり、色を認識し始めた頃から、赤や青のボールが描かれた色遊びのような本を読むようになりました。娘はニコニコしながら絵本を見つめていましたが、その表情がなんとも可愛くて。母親になったことをあらためて実感しました。

この春、娘は3歳になりました。いまや我が家にとって絵本は生活の一部です。たとえば夜、早くベッドに誘いたい時は「一緒にお布団で絵本を読もうよ」と提案すると、素直にベッドに入ってくれます。ただ、就寝前にテンションを上げてしまうと寝つきが悪くなってしまいますので、声のトーンはごくごく抑え目に。外出時も、もちろん持参しますよ。手のひらぐらいの小さな絵本

や開くとお面になるものまでいろいろあるので、用途や荷物の量に合わせて最適な一冊を選んでいきます。

何も予定が入っていないときは、時間が許すかぎり娘との絵本を満喫します。登場人物に合わせて声色を変えたり、臨場感たっぷりに効果音をつけてみたり。「もう一回!」と何度もせがまれるときは、絵本の巻末から読むこともあります。ストーリーはおかしくなりますが、「うさぎがいるね」とか、見たままを伝えます。すると新たなお話を読んでいる気分になるようで娘も興味津々。「このページの中から黄色いものを探してください〜」などと言って、突然クイズ大会を始めることもあります。そういった意味では、読み聞かせ中に言葉のリズムを変えることも。



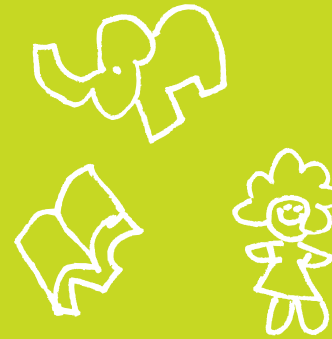
絵本は子どもの想像力や共感力を育んでくれます。子育てをする上で、欠かせない存在です。



たとえば『おっぱいのたび』という絵本の中に、「ママのおっぱいちゅっちゅっ」というセリフがあります。この「ちゅっちゅっ」のところを「ちゅっちゅちゅ〜♪」とか「ちゅちゅちゅちゅ〜♪」とか、その時のノリでリズムをどんどん変えちゃうのです。ただあまりノリノリでやると、娘のスイッチが入って永遠に読み聞かせすることになるので、自分の体力と状況を鑑みて、どの程度盛り上げるかはその都度調整します。ちょっとシビアですが……(笑)。絵本にルールはありませんので、一冊でいろんな楽しみ方をしています。

娘との駆け引きもおもしろい

3月から保育園に通い始めた娘は、日に日に成長しています。とくに最近は何んでも自分でやらないと気がすまないようで、ボタンをはめるのも、スポンをはくのもすべて自分。大人の私たちが下手に手を出すと、また初めからやり直すことになる



ので、とにかく我慢。30分ぐらいで済む場合も、1時間余裕を持って行動するようになりました。おかげで忍耐力ができました。日々学びです。

絵本に関しては、娘の方から出題してくるようにもなりました。「このページの中で、ボールはどこにあるでしょう」みたいな。ここですんなり正解を言ってしまうとその場がシラけてしまうので、「ママにはわからないな〜」、「難しいなあ〜」と彼女をヨイショします。すると娘は待ってましたと言わんばかりに、「ここにあります〜」と。この駆け引きがすごくおもしろいです。

あと3年も経てば娘は小学生になります。人生は早いものです。きっと学校へ行くようになったら、友達との遊びに夢中になり、私や夫との時間も減るでしょう。そう思うと、日々の絵本を読むひとときがとても貴重に感じられます。できる限り、この幸せな時間を娘とじっくり、ゆっくり味わいたいと思います。

Check!

子育てに役立つ絵本アイデア

子育て真っ最中の平野ノラさんに、
手軽に実践できる絵本のアイデアを教えていただきました。

本棚は6割キープで 取り出したくなる収納を意識



あえて
見せる

「いろいろ読んでほしい」からと、本棚に絵本をたくさん収納しがち。でも、ぎゅうぎゅうに詰めると、逆に子どもの興味は失せがちに……。ここはぐっとこらえて、厳選した絵本だけを並べましょう。収納の目安は6~7割。しかも縦に重ねるのではなく、本の表紙を見せて並べることで何が収納されているのが容易に把握でき、子どもも出し入れしやすくなります。自分で絵本を選び、自分で片付ける。こうした行動が自己肯定感を高めるのだと思います。私は2ヶ月ぐらいのスパンで、絵本のラインナップを変えています。収納しきれない本は、パパママのものを片付けて、空いたスペースに保管しておいてください。

絵本の空いたスペースを アルバム代わりに活用

私も娘も「くつついた」という絵本が大好き。きんぎょさんやぞうさんが次々とくつついていき、最後は赤ちゃんをはさんでお父さんとお母さんもくつつくお話です。この本を読むと必ず私と娘もほっぺをぎゅーっとくつついて幸せに浸るのですが、あるとき最後のページが白紙になっていることに気がきました。せっかくなので、私や夫、祖父母や近い人たちと娘がくつついている写真をカラーコピーして貼り付けたところ、これが大成功! 娘はこのページを見るたびに自分が愛されているのがわかるのか、とてもご機嫌になります。いつも読む本の空きスペースをアルバム代わりにして、大切な思い出をコラージュするのもおすすめです。



なんと
空いたページが
アルバムに!?